

2017年（平成29年度）

---

# 小畠病院年報

---

Kobatake Hospital Annual Report

# 病 院 長 挨拶



我々は長い間この地域の医療活動の中でどのような役割を担うべきか、ということを考えてまいりました。近年の地域包括ケアシステムの構築という流れの中で、当院は入院についてはいわゆる地域の急性期医療～回復期医療（リハビリを含む）～慢性期医療を担ってきており、さらに訪問看護ステーションによる在宅医療支援を行っています。

診療科は内科、泌尿器科、外科、眼科です。内科は外科の協力のもと総合内科診療をモットーとして3名の常勤医（神経内科・循環器内科・消化器内科）と大学からの診療協力医（非常勤）による循環器内科・消化器内科・脳神経内科、さらに大学からの診療協力医による呼吸器内科・糖尿病内科・リハビリテーション科の専門外来を行っています。外科・総合診療科、泌尿器科（常勤医2名、大学からの診療協力医2名）、眼科常勤医1名で診療体制を整えています。このように泌尿器科は勿論、内科・外科においても大学からの診療協力医とともに、より質の高い医療を提供できる体制をとっています。

病棟は二つで、一つは地域包括ケア病棟（52床）で地域における急性期医療と回復期医療を担っています。2017年度は前年より明らかに病棟稼働率は高くなっており、地域のニーズに応えられているものと考えています。もう一つは医療療養病棟（59床）で主として慢性期医療を担っています。当院は広島県の難病協力病院であり神経難病を中心に重症化が進んでいます。今後高齢者の増加とともに地域の医療は、「ときどき入院、ほぼ在宅」という形に向かっていますが、いつまでも地域の皆さまから信頼される病院であろうと職員一同心がけています。

なお2017年春から、地域包括ケア病棟の拡充、給食部門や講堂の新装移転、薬剤科や職員休憩室などの改装移転の工事の為、皆さまにご迷惑をおかけしていましたが、2018年末には完了する予定です。

病院長 小島 敬太郎

# 病院理念

地域に望まれる理想の医療を目指して

## 基本方針

1. 私たちは患者さんの立場に立ち、安心して満足できる医療を提供します。
1. 私たちは患者さんに心から信頼される医療人を育成します。
1. 私たちは地域に密着した病院としての機能向上を図ります。

## 職員心得10句

1. 挨拶はすべての始まり社会人
2. 職場では笑顔と返事忘れない
3. 今日もまた明るく清くヒトとモノ
4. 何事も基本にもどる手引きかな
5. 旧弊は振り払うべし若者よ
6. いつまでも試行錯誤を恐れない
7. みんなして同じエラーを二度しない
8. 今日から必要なことをすぐやろう
9. 明日からはやれない訳（わけ）を探さない
10. 枯れるまでいつも心は向上心

# 病院概要

(平成30年4月1日現在)

名称	医療法人社団玄同会 小島病院
開設	昭和61年3月（創立：昭和40年2月）
所在地	〒720-1142 広島県福山市駅家町大字上山守203番地
	電話：084-976-1351 FAX：084-976-6309
理事長	小島敬太郎
病院長	小島敬太郎
副院長	小島廉平
	中井肇
看護部長	梶谷一恵
副看護部長	佐野京子
地域医療部長・在宅事業部統括	佐藤千秋
事務局長	矢吹秀介
標榜科	内科・脳神経内科・消化器内科・循環器内科・外科・泌尿器科・眼科・リハビリテーション科
病床数	地域包括ケア病床：52床
	療養病床：59床
職員数	202人（平成30年4月現在）
建築面積	2,024.54㎡
延床面積	6,126.54㎡
保険医療指定機関 認定施設	各種社会保険療養取扱機関
	国民健康保険療養取扱機関
	老人医療取扱医療機関
	労働災害保険取扱機関
	生活保護指定医療機関
	身体障害者福祉法医療機関
	特定疾患治療取扱医療機関
	原子爆弾被爆者一般医療機関
	結核予防法指定医療機関
	介護保険療養取扱機関
	人間ドック実施医療機関
	公益財団法人日本医療機能評価機構認定病院 【認定第JC637-3号、機能種別版評価項目3rd.ver.1.1】
	厚生労働省臨床研修指定病院（施設番号 031937）
	日本泌尿器科学会専門医教育施設認定病院（施設登録番号 900089）
日本神経学会専門医教育関連施設（認定番号 20070816号）	

	広島県難病医療ネットワーク事業協力病院
	広島県地域リハビリテーション協力病院
併設医療施設	居宅介護支援事業所こばたけ
	訪問看護ステーションこばたけ
	デイサービスむべやま
	ケアモール芦花 (サービス付き高齢者向け住宅芦花、小規模多機能ホーム芦花)
	ヘルパーステーション芦花
付属施設	院内託児所

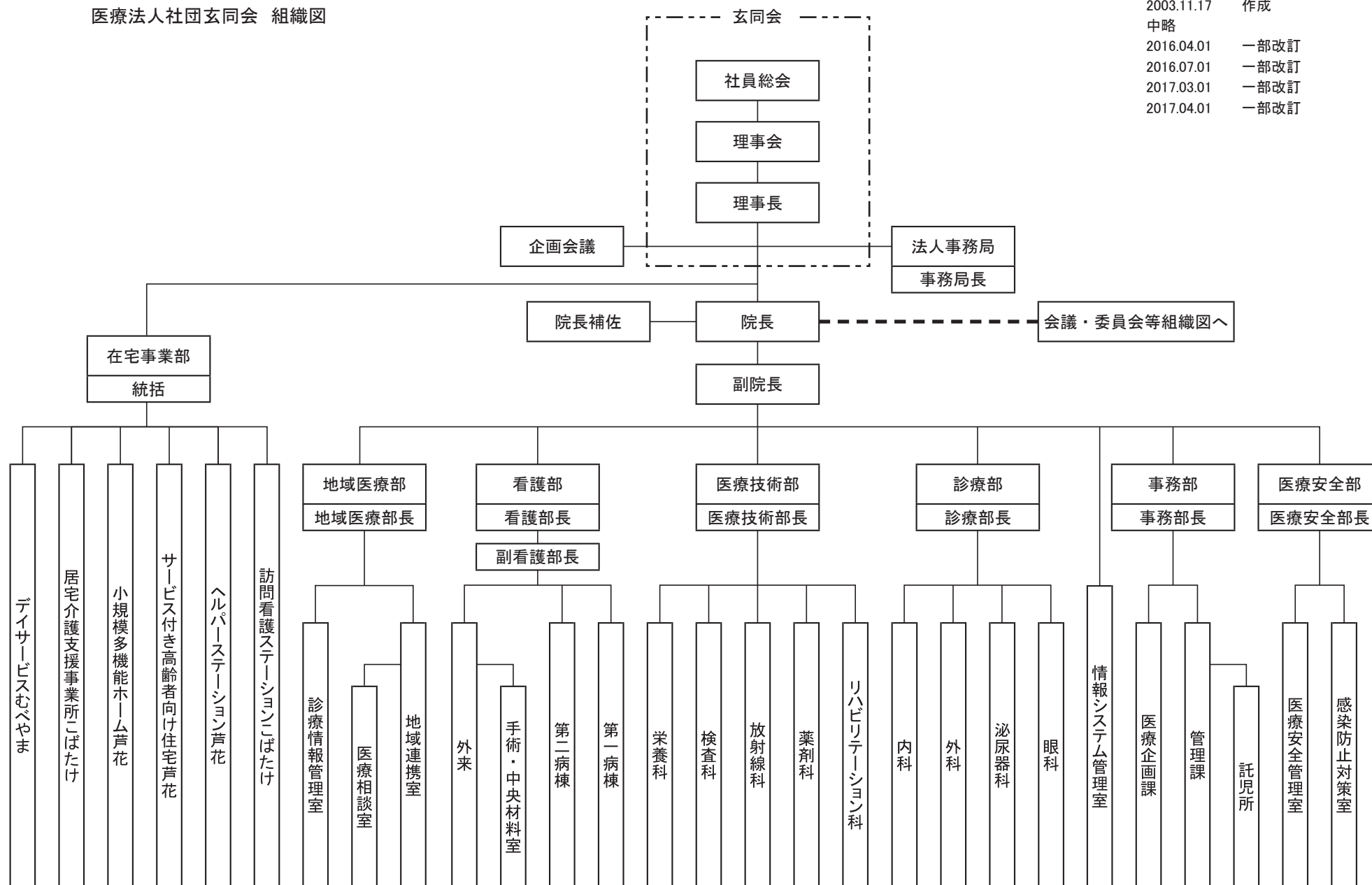
# 病院沿革

昭和20年	旧芦品郡宜山村大橋（現福山市駅家町大橋98番地）の旧高田医院を継承し、小島医院を開設 院長 小島三喜男
昭和25年	一次休止
昭和32年 3月	小島内科再開
昭和40年 2月	現在地に小島病院設立 内科・外科（27床） 病院長 小島三喜男
昭和49年 3月	34床に増設
昭和49年 4月	厚生連より運営を委譲され服部診療所開設
昭和55年11月	泌尿器科標榜 透析治療開始
昭和57年12月	本館完成 111床に増設
昭和58年 9月	神経内科標榜
昭和61年 3月	医療法人社団玄同会設立 理事長 小島三喜男
昭和61年 9月	小島敬太郎 理事長・病院長に就任
平成元年 2月	胃腸科（現、消化器内科）標榜
平成元年 4月	体外衝撃波結石破碎装置（ESWL）導入
平成元年12月	透析治療終了
平成 4年 6月	眼科標榜
平成 4年 9月	基準看護承認 基本看護1（一般病棟52床）特例看護1類（老人特例病棟47床）
平成 4年10月	体外衝撃波結石破碎装置（ESWL）施設承認
平成 5年 9月	日本泌尿器科学会専門医研修指定病院に認定される
平成 5年12月	中館完成
平成 6年11月	託児所完成
平成 8年 4月	第1回病院祭開催
平成 9年 1月	服部診療所新改築
平成 9年 4月	第2回病院祭開催
平成 9年 7月	ホームページ開設
平成12年 3月	東館完成
平成13年 4月	第3回病院祭開催
	院外処方箋開始
平成14年 9月	小島病院訪問リハビリテーション事業所開設
平成15年 3月	小島病院居宅介護支援事業所開設
平成15年 7月	広報誌「葦」創刊
平成15年10月	厚生労働省臨床研修病院（協力型）に指定される
平成16年 4月	広島県難病医療ネットワーク事業協力病院に認定される
平成16年 6月	本館増築工事完成
	小島病院デイサービスセンターむべやま完成
平成17年 4月	広島県地域リハビリテーション協力病院に指定される

平成17年 8 月	公益社団法人日本医療機能評価機構認定病院に指定される
平成18年 5 月	第4回病院祭開催
平成18年10月	服部診療所閉院
平成19年12月	オーダリングシステムを中心とした医療情報システムの導入
平成20年 7 月	PACS（画像情報システム・フィルムレス化）導入
平成22年 8 月	公益財団法人日本医療機能評価機構 認定病院に更新認定される
平成22年10月	一般病棟52床（内 亜急性期病床6床）、療養病棟60床の計112床に病床変更承認
平成25年 3 月	ケアモール芦花（サービス付き高齢者向け住宅芦花、小規模多機能ホーム芦花）開所
平成25年10月	小島病院訪問看護ステーション開設
平成25年11月	亜急性期病床を廃止し、一般病棟52床、療養病棟60床の計112床に病床変更承認
平成26年 8 月	循環器内科標榜
平成27年 2 月	電子カルテシステムの導入
平成27年 8 月	日本医療機能評価機構認定病院に更新・認定される
平成28年 4 月	福山市一般二次救急病院群輪番制に参加
平成28年11月	一般病床：52床（地域包括ケア病棟）、療養病床：60床（療養病棟）の計112床に病床変更
平成29年 3 月	ヘルパーステーション芦花開設
平成29年 4 月	一般病床：52床（地域包括ケア病棟）、療養病床：59床（療養病棟）の計111床に病床変更
平成29年10月	第5回病院祭開催
平成30年 1 月	通所リハビリテーション（デイケア）開設
平成30年 3 月	院内託児所新築移転

医療法人社団玄同会 組織図

2003.11.17 作成  
 中略  
 2016.04.01 一部改訂  
 2016.07.01 一部改訂  
 2017.03.01 一部改訂  
 2017.04.01 一部改訂



## ■概要

内科は初期診療の段階で適切な診察と検査で病因を究明し、早期診断を行い、最善の治療へ結び付けることを常に考え診療をしています。内科の診療対象となる疾患は数多くありますが、当院では一般内科の他、病院長の専門とする脳神経内科、副院長による循環器内科、原（睦）医師による消化器内科に加え、非常勤医師による糖尿病内科および呼吸器内科の専門治療を行っています。

〈スタッフ〉

常勤医師……3名

非常勤医師…9名

## ■活動実績

平成29年度の内科全体の外来患者数は延べ24,984人で、対前年度比1.2%減でした（表1）。入院では新規入院患者数が618名、延べ患者数は29,381人となっています（表2）。

一般病棟の入院診療は、副院長・内科医師と毎日交替で回診をし、それに加えて病院長の総回診もあります。また、日々の患者さんの変化に細かく対応するため、外科系の医師やコ・メディカルスタッフも含めたカンファレンスを毎朝行い、診断・治療を進めています。入院症例は肺炎が最も多く、続いて大腸ポリープ、心不全、悪性新生物、パーキンソン病、睡眠時無呼吸症候群となっ

平成28年度より参加している福山市一般二次救急病院輪番制では、平成29年度は当番回数46回、受け入れ患者数は162名でした（表3）。

在宅医療については、機能強化型在宅療養支援病院としての139件の往診、849件の訪問診療を行い、422件の医学総合管理料を算定しました（表4）。

## ■診療実績・統計

表1: 外来延べ患者数

(人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
初 診	2,913	2,577	2,455
再 診	22,847	22,696	22,529
合 計	25,760	25,273	24,984

表2: 入院延べ患者数

(人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
入院延べ患者数	29,793	29,701	29,381

表3: 輪番当番日の受入れ状況

(人)

	平成29年										平成30年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
依頼数	19	18	21	15	28	33	25	10	34	45	19	24	291	
受入数	12	9	15	10	16	19	13	5	17	26	9	11	162	
救急搬送	2	3	5	4	7	5	4	1	9	11	3	5	59	
ウォークイン	10	6	10	6	9	14	9	4	8	15	6	6	103	

輪番当番体制時間帯（18:00-8:00）での受入件数

表4: 在宅関連件数等

(人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
延べ往診件数	124	121	139
延べ訪問診療件数	852	772	849
在医総管・施医総管算定件数	445	387	422
在宅看取り件数	7	6	9

## ■ 脳神経内科 .....

当院では脳神経内科の外来診療は神経内科の専門外来ではなく、一般内科外来の中で行っています。当院へ来られた患者さんの中に混じっている神経疾患を見逃さず正しく診断して、適切な治療を受けられる機会を与えて差しあげたいと思っています。一方では頭痛やパーキンソン病などのように最初からその診断と治療を求めて来院される方もあります。診療は丁寧な病歴聴取が基本であると考え、スタッフからは病歴整理係と揶揄されながら、一般身体理学的所見・神経学的所見に基づくローテク神経内科に徹しています。このような診療スタイルで患者さん・ご家族に信頼されることに喜びを感じています。さらに高度な画像検査などが必要な場合は連携している高度専門的医療機関にお願いしています。

神経内科疾患としては、パーキンソン病やその関連疾患、脊髄小脳変性症や筋萎縮性側索硬化症(ALS)などの神経難病の長期 follow up を行っています。当院は広島県の難病協力病院に指定されており、病初期から進行期・末期まで様々なステージの患者さんに対して、薬物療法、リハビリ、レスパイト入院、合併症の予防や管理などを行っています。さらにこの地域においては遺伝性脊髄小脳変性症など遺伝性疾患が稀ではありません。詳細な病歴や家族歴の聴取が肝要です。

急性期脳血管障害や炎症性神経疾患は高度専門医療機関にお願いしています。回復期になれば当院で引き続き治療を行うような役割分担もできています。

### 1. 外来患者数

#### (1) 神経難病患者数

(人)

		平成27年	平成28年	平成29年
パーキンソン病及び パーキンソン関連 (※1)	初診	81	68	45
	再診	1,349	1,342	1,220
多系統萎縮症	初診	4	4	2
	再診	103	64	26
筋萎縮性側索硬化症	初診	4	7	2
	再診	43	31	19
認知症	初診	34	80	53
	再診	1,123	1,254	1,159
脊髄小脳変性症	初診	1	3	0
	再診	600	530	340
ハンチントン病等その他	初診	2	0	2
	再診	94	125	107

※1 パーキンソン病・進行性核上性麻痺・大脳皮質基底核変性症を含む

## (2) 頭痛患者数 (人)

		平成27年	平成28年	平成29年	
片頭痛	初診	94	85	38	
	再診	901	913	770	
緊張型頭痛	初診	75	112	53	
	再診	1,247	1,259	1,483	
群発頭痛	初診	3	0	0	
	再診	5	8	7	
MOH	片頭痛	初診	15	8	8
		再診	133	157	225
	緊張型頭痛	初診	4	0	1
		再診	7	8	13

## (3) 睡眠時無呼吸症候群 患者数 (人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
初診	56	76	21
再診	169	190	157
合計	225	266	178

## 2. 神経難病・認知症新入院患者数 (人)

	平成27年	平成28年	平成29年
パーキンソン病及び パーキンソン関連 (※1)	52	69	70
多系統萎縮症	4	7	2
筋萎縮性側索硬化症	8	5	8
認知症 (※2)	84	106	92
脊髄小脳変性症	3	4	7
ハンチントン病等その他	1	2	1

※1 パーキンソン病・進行性核上性麻痺・大脳皮質基底核変性症を含む

※2 認知症を伴うもの

## ■ 消化器内科 .....

消化器内科では腹痛、嘔吐、便通異常などの主に腹部症状を訴える患者さんを対象として各種検査・治療を行っています。

検査の結果、診断された食道癌、胃癌、肝癌、急性胆のう炎、膵癌、大腸癌、虫垂炎などの疾患は高次病院へ紹介し治療に結び付けています。萎縮性胃炎や胃・十二指腸潰瘍、胃癌の原因であるヘリコバクター・ピロリ感染に対して積極的に除菌療法を行っています。また、高次病院からの癌終末期患者さんの紹介にも対応し、在宅や入院での緩和医療を行っています。

消化器内科各検査・処置件数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
内視鏡検査			
上部（食道・胃・十二指腸）経口	408	384	479
上部（食道・胃・十二指腸）経鼻	641	651	565
下部	424	383	337
内視鏡処置			
内視鏡的大腸ポリープ切除術	111	96	82
胃瘻造設術	36	37	31
胃瘻交換	86	115	117
腹部超音波検査	561	553	535

■ 循環器内科 .....

循環器内科は常勤医が診療を行っているのに加え、週1回岡山大学循環器内科学教室からの非常勤医師派遣を受けながら診療を行っております。当院の患者さんは高齢者が圧倒的に多く特に高血圧、心不全の患者さんが多く、外来ではそういった患者さんの診察を行い、急性心不全や慢性心不全の急性増悪を認めた場合は入院での加療を行っております。実際平成29年度は心不全、高血圧の患者さんが前年度より増加しております。ただ当院で出来ることは限られており、たとえば急性冠症候群や明らかな重症弁膜症による心不全といった緊急での心臓カテーテル検査や手術が必要なケースの場合は患者さん本人やご家族とも相談の上、主に福山市民病院、福山循環器病院といった専門機関に紹介しております。その他緊急性はないものの今後心臓核医学検査、心臓カテーテル検査や手術といった侵襲的治療が必要と思われた患者さんについても専門機関に紹介しております。逆に専門機関からの継続加療目的にてご紹介頂いた患者さんについてもお受けしております。当院で出来ることは限られているものの、その中でできる限りの対応や治療を行ってまいります。

〈スタッフ〉

常勤医師……1名

非常勤医師…1名

■ 診療実績・統計 (人)

		平成27年	平成28年	平成29年
心不全	初診	42	49	52
	再診	2,626	2,621	2,499
不整脈 AF、PSVT 含む	初診	33	58	24
	再診	2,546	3,078	1,613
弁膜症 AS、MR 含む	初診	3	9	6
	再診	288	293	255
高血圧症	初診	123	144	177
	再診	12,238	12,226	13,101
先天疾患 ASD、VSD 含む	初診	0	1	0
	再診	0	0	0

## ■概要

平成28年6月より外科診療を再開いたしました。常勤医師1名での診療で一般的な外科の初期治療を主体に、腹部疾患についての総合的な診療も行っています。

入院に関しましては、高次医療機関病院での外科手術後（整形外科手術も含む）の患者さんのポストアキュートケア症例が徐々に増加しています。また鼠径ヘルニア等 小手術に関しましては、当科にて対応しておりまして、手術件数も増加してきています。

地域における当科の役割を果たすことが出来るよう、今後も努力して参ります。

## ■診療実績・統計

### 1. 外来延べ患者数 (人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
初 診	415	604	527
再 診	2,801	1,200	1,414
合 計	3,216	1,804	1,941

### 2. 入院延べ患者数 (人)

平成27年度	平成28年度	平成29年度
29	468	1,835

### 3. 手術件数

#### ①平成29年度手術件数 (件)

鼠径ヘルニア根治術	10
気管切開術	4
粉瘤切除術	5
抜爪術	1
CVポート挿入留置	5
大腿腫瘍摘出術	1
合 計	26

#### ②年度推移 (件)

平成27年度	平成28年度	平成29年度
19	24	24

泌尿器科は泌尿器科専門医である常勤医師2名（うち1名は指導医）と非常勤医師とで診療にあたっています。また、日本泌尿器科教育施設であり、研修医の受け入れも随時行っています。

平成29年度外来患者数 (人)

	平成28年度	平成29年度
初診	2,359	2,339
再診	1,566	15,282
合計	18,025	17,621

平成29年度入院総数の主な内訳 (人)

		平成28年度	平成29年度
入院実数 (人)	男性	452	466
	女性	125	108
	合計	577	574
平均年齢		70.72歳	70.29歳
平均在院日数		9.50日	9.94日

		平成28年度	平成29年度
悪性腫瘍	前立腺癌	83	84
	膀胱癌	81	64
	腎盂尿管癌	7	6
	腎癌	2	3
	精巣腫瘍	1	0
結石	腎・尿管	158	129
	膀胱・尿道	21	17
炎症	腎盂腎炎	42	58
	前立腺炎	11	25
	精巣上体炎	4	3
	その他	5	8
良性腫瘍	前立腺肥大症	64	110
	その他	2	5
その他		96	62
合計		577	574

平成29年度手術総数の主な内訳

(件)

		平成28年度	平成29年度
結石手術	ESWL（体外衝撃波による結石破碎術）	198	221
	経尿道的尿管結石摘出術（うちレーザー）	68(33)	60(33)
	経皮的尿管結石摘出術（うちレーザー）	6(1)	4
	経尿道的膀胱尿道結石摘出術	20	19
前立腺肥大症	TUR-P（経尿道的前立腺切除術）	35	39
	メモカス留置	7	6
悪性腫瘍手術	前立腺全摘出術	3	2
	後腹膜鏡下腎摘出術	2	1
	後腹膜下尿管全摘出術	1	2
	TUR-BT（経尿道的膀胱腫瘍切除術）	50	43
	膀胱多部位生検	24	23
前立腺生検		98	101
その他		24	59
合計		536	580

平成28年度と比べ、外来総数、入院総数には大きな変化はありませんでした。入院の疾患別の内訳では炎症、良性腫瘍の割合が増加傾向にありました。手術件数は全体で44件増加し、その中でESWL（体外衝撃波による結石破碎術）が24件増加しました。

## ■概要

当眼科は平成4年6月の開設以来、25年目を迎えました。

白内障や緑内障、加齢黄斑変性等の眼底疾患の診断・治療、コンタクトレンズや眼鏡の処方などを行っております。また、糖尿病や高血圧などの内科的疾患から目に症状がくることがあるため、内科と連携を図り、早期発見、診断・治療に努めております。

〈スタッフ〉

医師……………1名  
 視能訓練士…1名  
 眼科検査員…2名  
 助手……………1名

## ■診療実績・統計

外来延べ患者数 (人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
初 診	2,518	2,411	2,392
再 診	7,074	6,740	6,594
合 計	9,592	9,151	8,986

各検査件数 (件)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
矯正視力	8,124	7,797	7,639
調節	151	118	109
負荷後屈折	13	15	14
眼圧	6,675	6,481	6,233
静的視野 (オクトパス)	343	287	298
動的視野 (GP)	3	9	8
精密眼底検査 (片側)	12,591	12,123	12,037
眼底カメラ撮影	48	48	62
眼底三次元画像解析 (OCT)	1,464	1,472	1,415
細隙灯顕微鏡検査	7,162	6,884	7,023
眼鏡処方	216	190	167
コンタクトレンズ処方	2,316	2,210	2,061